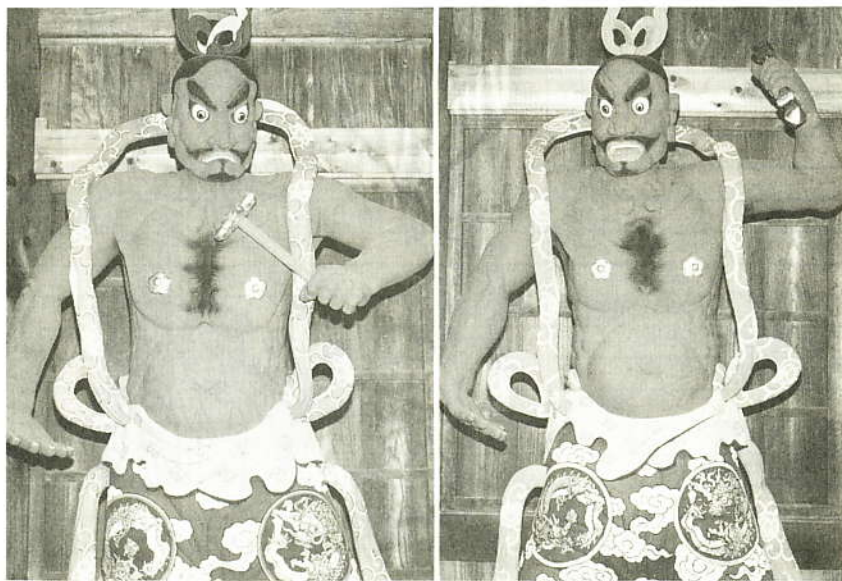


仁王像

福田寺山門の左右に、二王・二天・阿吽・金剛神などともいわれる仁王像が安置されている。

仁王像を安置する風習は古く上代にさかのぼり、711年この寺門の金剛力士像二体が作られたといわれている。一体は口を開いて左手に金剛杖を持ち、一体は口を閉じて右手を開いているが、これは金剛力士のもつ知恵によって煩惱を断ち、真実を明らかにするという、二つの面を具像化したものである。

仁王像は、体軀をあらわにし怒りの相を全身にみなぎらしており安置してある門を仁王門といっている。



弁財天（岐南町）

弁財天は河川を神格化したものといわれ、七福神の一人で水をつかさどる、水の女神・豊じょうの女神として農民に信奉され、用水池や小川のほとりに祭られている。

以前は東方100mの所にあった、小川のそばのムクの大樹（周囲14m）の根元に安置され、春秋の祭日には角とうろうに点火し、村人総出で神前に集まり、酒をくみかわし、子供には甘がゆを与えたりしていたようである。

昭和30年後半都市整備の際、当所に移転され、現在は6月28日と11月28日に祭りが行われている。

また、ムクの大樹は落雷で損傷していたが、昭和38年自然に倒れていまはない。

ムクの大樹

